

2. セッション 2

Step3 5年生に対する教育を確立する

1. 復習用教材（Step1(3年),Step2(4年)で実施した教材・要確認)…各 WG
2. 症例ベースの IT 教材…各 WG
3. WG1 ～ 4 の内容を総合的に含んだ教材

ワーキンググループ 1

岩手医科大学 歯学部
口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野
熊谷 章子

「Step 3、5年生に対する教育を確立する」のテーマに関しては、到達目標に修正の必要はないと判断された。しかし、他のWGから、Step 1の行動目標内の口腔内環境、機能検査について、今後検査方法の変化が予想されるため、詳細を表記しない方がいいのでは、Step 3の「口腔乾燥を歌える患者の診断および治療計画を立案できる」は、他の項目と重複しているため削除しては、との指摘をいただいた。

次に、3、4年生の復習用ライブラリーは、すでに完成していることが確認された。

5年生に対する症例ベースの復習用IT教材について、各大学で授業の進行状況が異なるが、まず、Step 2までにシェーグレン症候群、ストレスによる口腔乾燥症についての症例ベースのIT授業が終了していることを仮定する。Step 3の5年生での教材は、昭和大学では、訪問診療実習直前の学生に対し、予習として約半日の授業日程を計画する必要があると考えているとのこと。しかし、現時点では今年度の実施は困難である。よって今年度は臨床実習末にまとめて授業を実施する復習となるであろう。

内容は、高齢者に特化した口腔乾燥症について、医科への対診(主に薬物との関連性を学ぶ)、歯科医師としての対応について学べるような、治療計画の立案、治療法を中心としたIT教材を準備する必要があると意見が一致した。VP、ビデオでは主に基礎的なことを学び、臨床実習で実際に学ぶように設定する。高齢者、既往疾患、内服薬、咀嚼筋の衰え、口呼吸、義歯不適、多発性齲蝕等のつながりが理解できるようにする。VPでは外来通院患者、訪問診療患者はビデオを準備する。VPは昭和大学担当、ビデオは北海道医療大学担当とした。ビデオ作成前にWG1メンバーでシナリオを確認することとする。Step 2で使用されたVPのブラッシュアップは岩手医大で行うこととなった。

VP教材に取り組む前に学生に配布する問診票について、WG1では再度検討する必要があると判断された。VPに取り組む際に、ただ問診票に沿った質問をするのではなく、考えさせることができるものに変更すべきであるという意見が出たが、他のWGでは、各大学の問診票を参考にした、新たな問診票を作成済みであり、今回のWS資料に添付されている、それを基に聴取すべき内容を事前に把握することで、それが学生の学習効果につながると判断されるとの意見をいただいた。

WG1~4の内容を、総合的に含んだ教材について、訪問歯科診療の中での口腔乾燥症に特化した対応を検討する必要がある。臨床に即した、高齢者に対する、新しい教材作成が必要であるが、これに関しては更に時間を要する必要がある、今回のWSでの検討は困難であると考えられた。

ワーキンググループ 1 口腔乾燥症

昭和大学歯学部
高年齢者歯科学講座
佐藤 裕二

これまでの取り組み(Step 1・2)と、ディスカッションの結果である Step3 での計画を表に示す

	学年	ビデオ	VP	eラーニング	時間数	実習
Step 1	3年	放射線障害, 薬剤	なし	メカニズム, 症状	2~4時間	検査
Step 2	4, 5年	ストレス	シェーグレン	診断・治療	3~5時間	検査
Step 3	5年	口呼吸	薬剤	診断・治療, 対診	4時間	臨床実習

・時期としては、臨床実習の期間中とし、可能ならば、訪問歯科診療の前が望ましいとなったが、ただし、各大学の事情に合わせることにした。

・本年度はトライアルか、臨床実習終了間際に復習として行うことが現実的であることが確認された。

・各大学の担当は以下のように決まった。

1. 導入(ビデオ): 高齢者(口呼吸による口腔乾燥)
担当校: 北海道医療大学
2. 医療面接(VP): 高齢者(薬剤による口腔乾燥) → 医療面接・診断・治療計画
担当: 昭和大学
3. 診断治療計画(e-ラーニング): 治療(医科への対診、歯科での対応)
担当: 昭和大学

参考: Step 2のVPのブラッシュアップ: 担当校: 岩手医科大学

・なお、VPでは、簡単な問診表を使うことが提案された。

その理由は、医療面接に必要な項目が列記されていると、学生は単にVPでタイプするだけになるからである。患者の設計図を基に、3大学それぞれで実際に使用している問診票を記入して、学生に配付することとした。なお、口腔乾燥に特化した問診票は途中で進行状況を見ながら配付することが検討された。

・総合的な教材の作成に関しては、継続審議となった。

十分な時間が無いなかで、有意義なディスカッションが行われた。

セッション2 :

STEP 3

5年生に対する教育を確立する

WG : 1

グループプロダクト担当: 昭和大学 佐藤 裕二

5年生の到達目標

下記より確認の上、修正をお願いいたします。

■一般目標 [G10]
国民の健康に貢献できるオーラルフィジシャン（口腔科医）になるために、医療の仕組みを理解し、多職種連携のチーム医療に参加し、特に高齢者にみられることが多い口腔症状と各種全身疾患との関連を理解した上で、口腔のケアプランを立案する能力を獲得する。

Step 1 :
■行動目標 [SB0a]

- 日本の将来人口推計等から今後の日本の医療・歯科医療体系を考える。
- 高齢者に多く見られる基礎疾患について確認できる。
- 脳卒中の症状と全身および口腔の機能に対する影響を説明できる。
- 脳卒中後の患者の歯科診療における注意点を確認できる。
- 脳卒中発症から症状の回復までの一連の医療体制を確認できる。
- 医療・歯科医療の連携と病院におけるチーム医療の基本を説明できる。
- 唾液の分泌に影響を与える因子について説明できる。
- 口腔乾燥症の口腔内所見について説明できる。
- 口腔乾燥症を認める患者に対する口腔ケアについて説明できる。
- 口腔内環境・機能検査として、唾液分泌能測定、口腔乾燥度測定、細菌数測定、唾液機能測定、および咬合力測定を実施し、その結果を評価できる。

Step 2 :
■行動目標 [SB0e]

- 高齢者に多く見られる基礎疾患について説明できる。
- 基礎疾患を有する患者の歯科診療における注意点を説明できる。
- 口腔乾燥症を訴える患者の鑑別診断を説明できる。
- 口腔乾燥症を訴える患者に対して医療面接で聞く内容を説明できる。
- 口腔乾燥症の症状と治療法を説明できる。
- 脳卒中の症状と全身および口腔の機能に対する影響を説明できる。
- 急性期と回復期のチーム医療体制を説明できる。
- 医療・歯科医療の連携と病院におけるチーム医療を説明できる。
- 口腔内環境・機能検査として、唾液分泌能測定、口腔乾燥度測定、細菌数測定、唾液機能測定、および咬合力測定を実施し、診断につなげることができる。
- 全身疾患を有する患者に対する口腔のケアの実施について説明できる。

5年生の到達目標

下記より確認の上、修正をお願いいたします。

Step 3 :
■行動目標 [SB0a]

- 病診連携、病病連携を体験し、理解する。
- 多職種連携（医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職）のチーム医療を理解し、体験する。
- 地域医療の体験を通じて、保健・医療・福祉・介護の連携を理解し、歯科医師の役割を説明できる。
- 在宅（訪問）歯科診療に関する基本的知識・技術を有する。
- 基礎疾患を有する患者に対して口腔ケア計画を立案できる。
- 患者の全身状態を的確に把握し、必要に応じて医師と相談できる。
- 口腔乾燥症を訴える患者の診断および治療計画を立案できる。

WG1に関係するのは、5, 6, 7
変更なし

① 3・4年生の復習用ライブラリー WG1

Step 1+2

- e-ラーニング：ライブラリー教材のサーバへのアップロードが完了している
- VP：ライブラリー教材のサーバへのアップロードが完了している
ピコラボへサーバへのリンクの依頼済

② 5年生に対する症例ベースのIT教材 WG1

(ビデオ・VP・e-ラーニングを活用)

概要

Step 1:ビデオ:放射線、薬剤 →メカニズム・症状

Step 2 :ビデオ:ストレス
VP:シェーグレン →医療面接・診断
講義:治療

Step 3: ビデオ:高齢者(要介護、口呼吸)
VP:高齢者・薬剤 →医療面接・診断・治療計画
講義:治療(医科への対診、歯科での対応) ⁵

- 時期

臨床実習(訪問診療などを行うクール): 半日


予習 or 復習(今年度は復習または一部の学生)

VPでは、簡単な問診表を使うことを提案。


理由
・医療面接で必要な項目が列記されていると、学生は単にVPでタイプするだけになるから。

患者の設計図を基に、3大学それぞれで実際に使用している問診票を記入して、学生に配付する。

口腔乾燥に特化した問診票は途中で進行状況を見ながら配付。



岩手医科大学 問診票



北海道医療大学 問診票



② 5年生に対する症例ベースのIT教材 WG1
(ビデオ・VP・eラーニングを活用)

教材

1. 導入 (ビデオ) :
高齢者(要介護、口呼吸による口腔乾燥)
担当校: 北海道医療大学

② 5年生に対する症例ベースのIT教材 WG1
(ビデオ・VP・eラーニングを活用)

教材

2. 医療面接 (VP) :
高齢者(薬剤による口腔乾燥) → 医療面接・診断・治療計画
担当: 昭和大学

② 5年生に対する症例ベースのIT教材 WG1
(ビデオ・VP・eラーニングを活用)

教材

3. 診断治療計画 (eラーニング) :
治療(医科への対応、歯科での対応)
担当: 昭和大学

② 5年生に対する症例ベースのIT教材 WG1
 (ビデオ・VP・eラーニングを活用)

教材

4. その他 :

Step 2のVPIに関しては、岩手医科大学が担当してブラッシュアップを行う。

問診票は、3大学それぞれで実際に使用されているものを使用

13

③ WG1~4の内容と総合的な教材 WG1

未検討

74歳女性
口臭と上顎全部床義歯の脱落を主訴。
口腔内には保存不可能な歯が存在する。
脳梗塞・高血圧の既往

患者の自宅療養状況を示す期間があります。全体的な状況を各班共通として、口腔内環境等を各班ごとに設定し、step3教材を作りたいと思います。

訪問歯科診療

WG1

WG2

WG3

WG4

要介護者の口腔ケアを学習テーマとしたい。
数年前から高血圧で、治療中(お薬手帳)。残存歯にはプラークが多く(口腔内写真)。歯周状況もやや不良(エックス線写真、検査チャート)。舌乳頭の萎縮あり(写真)唾液量は減少

要介護者への外科処置に必要な知識、技術を学習テーマとしたい。
技術の対応方法

要介護者への治療における病診連携を学習テーマとしたい。
WG4と口腔内環境を交えて、治療法をテーマにすることも考えられる。

要介護者への補綴処置による機能回復を学習テーマとしたい。
義歯の調整・修理による機能回復

14

④ 5年生のポートフォリオの活用 WG1

Step 2同様に行う。

臨床実習での学外実習とリンクさせる

15

⑤ 総合的な教材の作成 WG1

74歳女性 口臭と上顎全部床義歯の脱落を主訴。
口腔内には保存不可能な歯が存在する。
脳梗塞・高血圧の既往

要介護者の口腔ケアを学習テーマとしたい。

- 数年前から高血圧で、治療中(お薬手帳)。
- 残存歯にはプラークが多く(口腔内写真)、歯周状況もやや不良(エックス線写真、検査チャート)。舌乳頭の萎縮あり(写真)
- 唾液量は減少

未検討

16

ワーキンググループ2

昭和大学歯学部
全身管理歯科学講座 歯科麻酔学部門
飯島 毅彦

すでに3年分の教材があるため方向性の設定は、どのグループもかなり決まっていた。5年生ではより現場に即した設定の中で基礎的な知識をもとに個々の症例に合わせて考えるような教材を目指していた。ただ、これまで3年生、4年生には秋の授業に行くことは日程調整上可能であったが、臨床実習中の5年生にすぐに応用することは困難であると思われた。また、学生にとって臨床実習中にこのような教材を組み入れることが不自然ではなく受け入れられるように目的を明らかにして導入する必要があると感じられた。この5年生の教材により3、4、5年の段階的な教材になるので果たしてこれらのテーマでの教育効果が上がっているかを評価できるようになると思われた。

ワーキンググループ 2

昭和大学歯学部
歯周病学講座
須田 玲子

①一般目標と行動目標の修正

Step1、Step2 ともにWG 2 と関連している一般目標や行動目標はなかったため、ほぼ修正する箇所はなかった。そのなかで、「基礎疾患」だけでは範囲が広いので、特に取り上げた「糖尿病」と「心房細動」を明記するよう追記した。

Step3 では、「検査結果」や「対診書」を単に読むだけでなく、それらの結果をもとに治療計画を立てられるようになることが重要であると考え、行動目標の修正を行った。

②5年生に対する IT 教材の作成

基本的に、Step2（4年生）で取り扱う症例を引き続き使用することにした。そのため、新たにDVDの作成は不要と判断した。

Step2 では医療面接で全身疾患の状態を把握することの重要性を学んだところで終了しているため、Step2 での医療面接の結果をもとに、

V Pで口腔内診察、口腔内検査を行い、診断、治療方法を選択する。

その後 e-learning で

1. 選択した治療方法における全身疾患の影響や問題点を抽出、
2. それをもとに内科の担当医に対診書を書く、
3. 担当医の返書をもとに、治療前の全身状態のコントロールの必要性や治療中の注意点を抽出し、
4. 総合的な治療計画をたてること

を最終目標とした。

他にリソースとして、

1. Step2 で使用した問診票
2. Step2 で問診票とV Pでの医療面接の結果、作成した予診表の模範解答
3. 対診書の模範解答
4. 内科担当医からの返書

を準備する必要がある。

セッション2 :

STEP 3

5年生に対する教育を確立する

WG : 2

グループプロダクト担当: 昭和大学 須田 玲子

5年生の到達目標

■一般目標【G10】
国民の健康に貢献できるオーラルフィジシャン（口腔医）になるために、医療の仕組みを理解し、多職種連携のチーム医療に参加し、特に高齢者にみられることが多い口腔症状と各種全身疾患との関連を理解した上で、口腔のケアプランを立案する能力を獲得する。

■行動目標【SBOs】

Step 1 :

- 日本の将来人口推計等から今後の日本の医療・歯科医療体系を考える。
- 高齢者に多く見られる基礎疾患について概説できる。
- 脳卒中の症状と全身および口腔の機能に対する影響を説明できる。
- 脳卒中後の患者の歯科診療における注意点を概説できる。
- 脳卒中発症から症状の回復までの一連の医療体制を概説できる。
- 医療・歯科医療の連携と病院におけるチーム医療の基本を説明できる。
- 唾液の分泌に影響を与える因子について説明できる。
- 口腔乾燥症の口腔内所見について説明できる。
- 口腔乾燥を認める患者に対する口腔ケアについて説明できる。
- 口腔内環境・機能検査として、唾液分泌能測定、口腔乾燥度測定、細菌数測定、唾液機能測定、および咬合力測定を実施し、その結果を評価できる。

Step 2 :

■行動目標【SBOs】

- 高齢者に多く見られる基礎疾患（糖尿病、心臓病など）について説明できる。
- 基礎疾患を有する患者の歯科診療における注意点を説明できる。
- 口腔乾燥を訴える患者の鑑別診断を説明できる。
- 口腔乾燥を訴える患者に対して医療面接で聞く内容を説明できる。
- 口腔乾燥症の症状と治療法を説明できる。
- 脳卒中の症状と全身および口腔の機能に対する影響を説明できる。
- 急性期と回復期のチーム医療体制を説明できる。
- 医療・歯科医療の連携と病院におけるチーム医療を説明できる。
- 口腔内環境・機能検査として、唾液分泌能測定、口腔乾燥度測定、細菌数測定、唾液機能測定、および咬合力測定を実施し、診断につなげることができる。
- 全身疾患を有する患者に対する口腔のケアの実施について説明できる。

5年生の到達目標

Step 3 :

■行動目標【SBOs】

- 病診連携、病病連携を体験し、理解する。
- 多職種連携（医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職）のチーム医療を理解し、体験する。
- 地域医療の体験を通じて、保健・医療・福祉・介護の連携を理解し、歯科医師の役割を説明できる。
- 在宅（訪問）歯科診療に関する基本的知識、技術を有する。
- 基礎疾患を有する患者に対して**口腔ケア治療計画**を立案できる。
- 患者の全身状態を的確に把握し、必要に応じて医師と相談できる。し、**患者の全身状態の問題を整理できる。**
- 歯科口腔外科処置に対する術前管理として、医師と連携して全身状態をコントロールできる。**
- 口腔乾燥を訴える患者の診断および治療計画を立案できる。

WG2

① 3・4年生の復習用ライブラリー

Step1

- e-ラーニング：無し
- VP：無し

Step2

- e-ラーニング：糖尿病の症例完成（草野先生）
不整脈の症例準備中（城先生）
- VP：VPブラッシュアップ中（菅沼先生）

② 5年生に対する症例ベースのIT教材 WG2

(ビデオ・VP・e-ラーニングを活用)

概要

医療面接の結果から
診断
治療法の選択(抜歯)
歯科治療時に対する全身疾患の影響・問題点の抽出

↓

医者に対診
対診結果を整理
術前の全身状態のコントロールの必要性を判断し
治療計画を立案する

② 5年生に対する症例ベースのIT教材 WG2

(ビデオ・VP・e-ラーニングを活用)

教材

1. 導入（ビデオ）： 不要

② 5年生に対する症例ベースのIT教材 **WG2**
 (ビデオ・VP・e-ラーニングを活用)

教材

2. VP :

```

    graph LR
        A[医療面接 STEP2] --> B[口腔内の診察]
        B --> C[付加検査]
        C --> D[診断]
        D --> E[治療法を選択]
    
```

7

② 5年生に対する症例ベースのIT教材 **WG2**
 (ビデオ・VP・e-ラーニングを活用)

教材

3. 診断治療計画 (e-ラーニング) :

歯科治療における全身疾患の問題点の抽出
 医師への対診書を書く
 医師からの返書を読んで、問題点を抽出
 術前の全身・および口腔管理の計画を立てる

8

② 5年生に対する症例ベースのIT教材 **WG2**
 (ビデオ・VP・e-ラーニングを活用)

教材

4. その他 : 問診票
 歯科予診録(模範解答)
 対診書(解答)
 医師からの回答

9

③ WG1~4の内容と総合的な教材 **WG2**

訪問歯科診療

WG1
 要介護者の口腔ケアを学習テーマとしたい。
 数年前から高血圧で、治療中(お薬手帳)。残存歯にはブラークが多く(口腔内写真)。歯周状況もやや不良(エックス線写真、検査チャート)。舌乳頭の萎縮あり(写真) 唾液量は減少

WG2
 要介護者への外科処置に必要な知識、技術を学習テーマとしたい。
 抜歯の対応方法

WG3
 要介護者への治療における術前準備を学習テーマとしたい。
 WG4と口腔内環境を覚えて、治療法をテーマにすることも考えられる。

WG4
 要介護者への補綴処置による機能回復を学習テーマとしたい。
 義歯の調整・修理による機能回復

10

ワーキンググループ3

北海道歯科医師会
河野 崇志

5年生は本ワークショップで作成した教育プログラム受講の最終学年であることからこのセッションでは、高齢化社会に対応しうる歯科医師の養成にあたって、学生の段階で最終的にどの程度の能力を有するようプログラムを構成するかということが論議の中心である。

さて、有病者の歯科治療に際し医師に歯科治療の可否を問うても十分な回答は期待できない。なぜなら医師はこれから行われる歯科治療の手法や使用される薬剤について知り得ないし、仮にそれらを説明し理解が得られても、治療時に発生した不測の事態についての責任は、医師にはなくあくまでも術者である歯科医にある。したがって、歯科医は患者の有する疾患について全てを理解し、あらゆる事態を予測したうえで処置に入らなければならないが、実際のところ臨床では不測の事態は大なり小なり常に発生している。しかしながら、特に認知症患者などで難儀を極めるケースが多くあり、経営という観点から見ると全く割の合わない仕事となっていることもあり、これを教育の充実をもって解決しようとするのは、あまりにも非現実的な妄想であるということも理解しておかなければならない。

そこでまず、学生教育のゴールとしては、有病者歯科治療が歯科医としての社会的責任であるという観点を持ってもらうことが最も重要な点であり、そのためには実習を通じて患者や患者家族からの感謝の意を受ける経験をしておくことがよいであろう。

つぎに3・4年生のプログラムでは口腔乾燥症、脳梗塞が中心に取り上げられていたが、他疾患についても必要最低限の知識は入れておいた方がよいであろう。心筋梗塞の既往がある患者を朝一番の予約にしていたところ、ある寒い朝、歯医者に行くために玄関を出たところで発作を起こし死亡したというケースを知っているが、少しの知識で防げた事故もある。

最後に、現在歯科医の卒後教育に関し、歯科総合医という専門医の創設が論議されているが、学生教育と卒後教育の兼合いについて、学生教育では精神・概念を理解し、具体論は卒後教育でという考え方に基づいたプログラム構成を考えるのが良いと感じた。

ワーキンググループ3

昭和大学歯学部
歯科保存学講座 総合診療歯科学部門
勝部 直人

セッション2では、5年生に対する本プロジェクトの授業内容について討論があった。

5年生に対する教育を考えるにあたり、まずは3年生を対象とした Step1と4年生を対象とした Step2の行動目標の再確認を行った。その結果、Step1と Step2に共通する知識に関する項目が存在するので、3年生には「概説できる」とし、4年生には「説明できる」として学年が上がる毎に知識の深さを求めるように改変した。また、“脳卒中”など疾患を限定していた部分は、超高齢社会における重要対象疾患が変遷する可能性を鑑み、あえて“高齢者に多くみられる基礎疾患”と、対象を広げる言葉に改変した。さらに、口腔内環境や機能検査の項目が限定されていた部分も、あえて限定しないことで、3大学に共通して使える行動目標とするよう改変した。

Step3 における行動目標のうち、在宅(訪問)歯科診療に関する記述では、技能を身に着けることは卒前学生では困難と考え、「特殊性を理解し、基本的知識、必要な態度をとることができる」に改変した。また、患者の全身状態を的確に把握することを5年生の学生に課すことは難しく、「口腔内症状と全身状態の関連を把握し治療計画を立案できる」に改変した。また、この部分に口腔乾燥を訴える患者に対する行動目標を含めることとした。

- ① 復習用ライブラリーに関しては、3年次と4年次のものを再利用することとした。具体的には、3年次で使用した e-ラーニングの素材 (VP:なし)、4年次で使用する「脳梗塞の症例(ビデオ)準備中(弘中先生)」e-ラーニングの素材、VP に関しては口腔内写真を追加しブラッシュアップする(内海先生)ことで再利用することとした。
- ② 5年生に対する症例えベースの IT 教材に関しては、抽出すべき問題点を列記させ、診療室における通常の診療とは環境が違うことを理解させるような教材の作成が必要と考えた。すなわち、在宅の現場では、
 - ・医療用装置・器具が違う
 - ・家族(サポーター)とのコミュニケーションが必要
 - ・患者の QOL や ADL の低下により、治療のゴール設定が違う
 - ・スタッフがいらないといった状況下で、歯科医師の果たすべき役割を理解させるような教材の作成が必要と結論した。
- ③ WG1~4 の内容と総合的な教材に関しては、グループ3は“病診連携”をテーマにしているので、急性期の病院から地域医療連携に基づく医療情報を適切に伝達するための対診書の作成を考えさせる教材を検討することとした。
- ④ に関しては時間がなかったために検討を行わなかった。
- ⑤ 総合的な教材の作成にあたって福祉との連携が重要で、介護・支援の状況を把握する必要がある、
 - ・対診すべき相手は誰か？ ・介護状況は？ ・血液検査の結果は？ ・サポーターは誰か？などの医療情報を適切に把握することを学習目標とする教材の作成を考えた。

セッション2 :

STEP 3

5年生に対する教育を確立する

WG : 3

グループプロダクト担当: 昭和大学 勝部 直人

5年生の到達目標

下記より確認の上、修正をお願いいたします。

■一般目標【G10】
国民の健康に貢献できるオーラルフィジシャン（口腔科医）になるために、医療の仕組みを理解し、多職種連携のチーム医療に参加し、特に高齢者にみられることが多い口腔症状と各種全身疾患との関連を理解した上で、口腔のケアプランを立案する能力を獲得する。

■Step 1 (3年生)
■行動目標【SB0e】
1. 日本の将来人口増加等から今後の日本の医療・歯科医療体系を**考える説明**できる。
2. 高齢者に多く見られる基礎疾患について確認できる。
3. **脳卒中高齢者に多く見られる基礎疾患**の症状と全身および口腔の機能に対する影響を**説明**できる。
4. 脳卒中後の患者の歯科診療における注意点を確認できる。
5. 脳卒中発症から症状の回復までの一連の看護体制を確認できる。
6. 医療・歯科医療の連携と病院におけるチーム医療の基本を説明できる。
7. 唾液の分泌に影響を与える因子について説明できる。
8. 口腔乾燥症の口腔内所見について説明できる。
9. 口腔乾燥を認める患者に対する口腔ケアについて説明できる。
10. 口腔内環境・機能検査**として、唾液分泌検査、口腔乾燥度測定、唾液検査、唾液分泌検査、および唾液検査**を実施し、その結果を評価できる。

■Step 2 (4年生)
■行動目標【SB0e】
1. 高齢者に多く見られる基礎疾患について説明できる。
2. 基礎疾患を有する患者の歯科診療における注意点を説明できる。
3. 口腔乾燥を訴える患者の鑑別診断を説明できる。
4. 口腔乾燥を訴える患者に対して医療面接で聞く内容を**説明**できる。
5. 口腔乾燥症の症状と治療法を説明できる。
6. 脳卒中の症状と全身および口腔の機能に対する影響を**説明**できる。
7. 急性期と回復期のチーム医療体制を説明できる。
8. 医療・歯科医療の連携と病院におけるチーム医療を説明できる。
9. 口腔内環境・機能検査**として、唾液分泌検査、口腔乾燥度測定、唾液検査、唾液分泌検査、および唾液検査**を実施し、診断につなげることができる。
10. 全身疾患を有する患者に対する口腔のケアの実施について説明できる。

5年生の到達目標

下記より確認の上、修正をお願いいたします。

■Step 3 (5年生)
■行動目標【SB0e】
1. 病診連携、病病連携を体験し、理解する。
2. 多職種連携（医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療職）のチーム医療を理解し、体験する。
3. 地域医療の体験を通じて、保健・医療・福祉・介護の連携を理解し、歯科医師の役割を説明できる。
4. 在宅（訪問）歯科診療の**特殊性を理解しに關する基本的知識、必要な態度・技術をとることができる。**
5. 基礎疾患を有する患者に対して口腔ケア計画を立案できる。
6. **患者の全身状態を的確に把握し、口腔内症状と全身状態の関連を把握し治療計画を立案できる。必要に応じて医師と相談できる。**
7. **口腔乾燥を訴える患者の診断および治療計画を立案できる。**

WG3

① 3・4年生の復習用ライブラリー

Step1

- e-ラーニング：3年次で使用した素材を再利用
- VP：なし

Step2

- e-ラーニング：脳梗塞の症例（ビデオ）準備中（弘中先生）を再利用
- VP：ブラッシュアップ中（内海先生）を再利用し、口腔内写真を追加

② 5年生に対する症例ベースのIT教材 WG3

(ビデオ・VP・e-ラーニングを活用)

概要

診療室での通常の診療に比べて在宅の現場では、

- ・医療用装置・器具が違う
- ・スタッフがいない
- ・家族(サポーター)とのコミュニケーションが必要
- ・治療のゴール設定が違う

歯科医師の果たすべき役割を理解させるような素材

② 5年生に対する症例ベースのIT教材 WG3

(ビデオ・VP・e-ラーニングを活用)

教材

1. 導入（ビデオ）：なし

② 5年生に対する症例ベースのIT教材 WG3
 (ビデオ・VP・eラーニングを活用)

教材

2. 医療面接 (VP) : なし

② 5年生に対する症例ベースのIT教材 WG3
 (ビデオ・VP・eラーニングを活用)

教材

3. 診断・治療計画 (eラーニング) :

診療室での通常の診療に比べて在宅の現場では、

- ・医療用装置・器具が違う
- ・スタッフがいない
- ・家族(サポーター)とのコミュニケーションが必要
- ・治療のゴール設定が違う

歯科医師の果たすべき役割を理解させるような素材

② 5年生に対する症例ベースのIT教材 WG3
 (ビデオ・VP・eラーニングを活用)

教材

4. その他 :

地域の歯科医師会における「摂食嚥下機能健康診査、及び訪問歯科健康診査の依頼」の実態を学習する。
 <大田区の例>

まず、訪問歯科健康診査の依頼があり、必要ならば摂食嚥下機能健康診査となる。
 摂食嚥下機能健康診査のみで受ける事もある。
 摂食嚥下機能の評価依頼の担当は地域福祉課で、大田区の歯科衛生士が担当する。

○医師からの場合
 蒲田地域健康課 (5713-1701) または雑谷羽田地域健康課 (3743-4161) へ電話して、「摂食嚥下機能健康診査について、地域福祉課兼任の歯科衛生士の方」に相談

○家族からの場合
 ケアマネージャー・在宅介護支援センターを通して
 → 大田区地域福祉課→大田区の担当歯科衛生士 (訪問歯科健康診査)
 その後、大田区の担当歯科衛生士 (訪問歯科健康診査)
 →蒲田歯科医師会地域医療担当理事→ねたきり高齢者担当医へ担当
 訪問し「訪問歯科健康診査、及び摂食嚥下機能健康診査」
 3回無料 診査、指導、指導→家族、必要であればその後は保健診療で行う事が可能

参考資料:大田区の訪問歯科健診、摂食嚥下機能健康診査表

③ WG1~4の内容と総合的な教材 WG3

74歳女性
 口臭と上顎全部床義歯の脱落を主訴。
 口腔内には保存不可能な歯が存在する。
 脳梗塞・高血圧の既往

患者の自宅療養状況を示す動画があります。
 全体的な状況を各班共通として、口腔内環境等を各班ごとに設定し、step3教材を作りたいと思います。

訪問歯科診療

WG1
 要介護者の口腔ケアを学習テーマとしたい。
 数年前から高血圧で、治療中(お薬手帳)。
 残存歯にはブラークが多く(口腔内写真)。
 歯周状況もやや不良(エックス線写真、検査シート)。舌乳頭の萎縮あり(写真)。
 唾液量は減少

WG2
 要介護者への外科処置に必要な知識、技術を学習テーマとしたい。
 抜歯の対応方法

WG3
 要介護者への治療における病診連携を学習テーマとしたい。
 WG4と口腔内環境を変えて、治療法をテーマにすることも考えられる。

WG4
 要介護者への補綴処置による機能回復を学習テーマとしたい。
 義歯の調整・修理による機能回復

⑤ 総合的な教材の作成 WG3

74歳女性
 口臭と上顎全部床義歯の脱落を主訴。
 口腔内には保存不可能な歯が存在する。
 脳梗塞・高血圧の既往

要介護者への治療における病診連携を学習テーマとしたい。
 (WG4と口腔内環境を変えて、治療法をテーマにすることも考えられる)

福祉との連携
 介護・支援の状況を把握する

- ・対診すべき相手は誰か?
- ・介護状況は?
- ・血液検査の結果は?
- ・サポーターは誰か?

ワーキンググループ4

昭和大学歯学部
スペシャルニーズ口腔医学講座 地域連携歯科学部門
マイヤース三恵

セッション2は5年生に対する教育の確立として、まず5年生の到達目標から見直しするにあたり、高齢者に対する歯科医療において最も歯科医師が求められる能力とは何かという議論を行った。5年生では実践的なスキルを習得する事が重要であると考え、高齢者の特殊性、すなわち個々の患者が持っている身体的、精神的な問題に対応しながら安心安全な医療を実践する能力が必要であるとグループ内の意見が一致したため変更を加えた。また、目標の中に「訪問歯科診療に関する基礎知識・技術を有する」という項目が含まれていたが、5年生の段階で実際に訪問歯科診療の技術を有するレベルまで要求するのは非常に難しいのではないかという意見があり変更した。

5年生に対する症例ベースの教材については、「要介護者への補綴処置による機能回復」をテーマとして、在宅医療に参加したあとの知識の整理をIT教材で行っていくということになった。導入として、訪問診療のビデオを供覧し、実際の現場を認識した後、問題点(訪問用の器具器材、患者の状態、スタッフの体制等)を抽出し、訪問診療に特化した診断治療計画を立案するという一連の流れをもった教材にすることで意見が一致した。訪問診療に特化した治療とは、在宅医療では、一早い栄養状態の改善と機能回復が求められることから、新義歯作成よりも義歯の修理、ライニングや粘膜調整を行う方向の治療を優先するということである。実際の訪問診療の現場をビデオ教材として作成し、e-learningは全体的な流れを考慮した診断治療計画立案に使用することとなった。しかし、VP(バーチャルペーシェント)は、患者がユニットに座っている写真のため、訪問診療の体系に当てはめるのは難しいのではないかということで現状では使用するのは不可能という判断に至った。

全体を通して、討議の時間が短く、思っていたよりも教材の詳細を決める時間がなかなかなかった。また、他のWGとの一連の流れを持った教材にするためには、中間報告という形で一度各班が発表し、それをもとに再度各WGに分かれて話し合っただけで微調整を行うことができればよかったのではないかと思った。

ワーキンググループ4

昭和大学歯学部
高齢者歯科学講座
北川 昇

第6回までのワークショップで作成・検討されたコンテンツを利用した3大学での講義について確認し、5年生に対する教育について検討した。

最初に、シラバスにおける一般目標と行動目標について検討した。

1) 一般目標[GIO]

国民の健康に貢献できるオーラルフィジシャン(口腔科医)になるために、医療の仕組みを理解し、多職種連携のチーム医療に参加し、特に高齢者にみられることが多い口腔症状と各種全身疾患との関連を理解した上で、~~口腔のケアプランを立案する~~安心・安全な歯科診療を実施する能力を獲得する。

2) 行動目標[SBOs]

脳卒中の症状と全身および口腔の機能に対する影響を説明概説できる。

口腔ケア→口腔のケア

在宅(訪問)歯科診療に関する基本的知識・技術を習得する~~有する~~。

口腔ケア計画→口腔機能管理

続いて、3・4年生の復習用ライブラリーについて検討した。Step 1, Step 2 (3・4年生)ともに、eラーニングについては、ライブラリー教材のサーバへのアップロードが完了しているとの報告があった。VPについては、Step 1は存在せず、Step 2は修正中であることが確認された。なお、Step 3での作成は不可能ではないかとの意見が出された。理由としては、訪問歯科診療時の医療面接に特定したシナリオ作成が困難、問診票を利用したVPはナンセンス等の意見が述べられた。

5年生に対する症例ベースのIT教材に関しては、ワーキンググループヘッドの越野先生から、最初に全ワーキンググループの内容を包括した形の訪問歯科診療のビデオを供覧した後に、各ワーキンググループでコンテンツを作成してはどうかとの意見が述べられ、賛同が得られた。このビデオに関しては弘中先生(昭和大学)が制作に携わっているので、使用の許諾・著作権等に関しては弘中先生にお願いしたい旨の発言があった。当ワーキンググループでは、コンテンツのメインを要介護高齢者への補綴処置による機能回復をテーマとした旨の意見がだされた。

セッション2 :

STEP 3

5年生に対する教育を確立する

WG : 4

グループプロダクト担当: 昭和大学 北川 昇

5年生の到達目標

下記より確認の上、修正をお願いいたします。

■一般目標 [G10]
国民の健康に貢献できるオーラルフィジシャン（口腔科医）になるために、医療の仕組みを理解し、多職種連携のチーム医療に参加し、特に高齢者にみられることが多い口腔症状と各種全身疾患との関連を理解した上で、口腔のケアプランを立案する**安心・安全な歯科診療を提供する能力**を獲得する。

Step 1 :
■行動目標 [SBOs]
1. 日本の将来人口推計等から今後の日本の医療・歯科医療体系を考える。
2. 高齢者に多く見られる基礎疾患について説明できる。
3. 脳卒中の症状と全身および口腔の機能に対する影響を説明**説明**できる。
4. 脳卒中後の患者の歯科診療における注意点を説明できる。
5. 脳卒中後から症状の回復までの一連の医療体制を説明できる。
6. 基礎・歯科医療の連携と病院におけるチーム医療の基本を説明できる。
7. 唾液の分泌に影響を与える因子について説明できる。
8. 口腔乾燥症の口腔内所見について説明できる。
9. 口腔乾燥を認める患者に対する口腔のケアについて説明できる。
10. 口腔内環境・機能検査として、唾液分泌能測定、口腔乾燥度測定、細菌数測定、唾液機能測定、および咬合力測定を実施し、その結果を評価できる。

Step 2 :
■行動目標 [SBOs]
1. 高齢者に多く見られる基礎疾患について説明できる。
2. 基礎疾患を有する患者の口腔状態における注意点を説明できる。
3. 口腔乾燥を訴える患者の鑑別診断を説明できる。
4. 口腔乾燥を訴える患者に対して医療面接で聞く内容を説明できる。
5. 口腔乾燥症の症状と治療法を説明できる。
6. 脳卒中と回復期のチーム医療体制を説明できる。
7. 基礎・歯科医療の連携と病院におけるチーム医療を説明できる。
8. 口腔内環境・機能検査として、唾液分泌能測定、口腔乾燥度測定、細菌数測定、唾液機能測定、および咬合力測定を実施し、診断につなげることができる。
9. 全身疾患を有する患者に対する口腔のケアの実践について説明できる。

5年生の到達目標

下記より確認の上、修正をお願いいたします。

Step 3 :
■行動目標 [SBOs]
1. 病診連携、病病連携を体験し、理解する。
2. 多職種連携（医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科技士、その他の医療職）のチーム医療を理解し、体験する。
3. 地域医療の体験を通して、保健・医療・福祉・介護の連携を理解し、歯科医師の役割を説明できる。
4. 在宅（訪問）歯科診療に関する基本的知識・技術を**習得する**。習得できる。
5. 基礎疾患を有する患者に対して口腔**機能管理**を**立案**できる。
6. 患者の全身状態を的確に把握し、必要に応じて医師と相談できる。
7. 口腔乾燥を訴える患者の診断および治療計画を立案できる。

① 3・4年生の復習用ライブラリー WG4

Step1

- e-ラーニング：ライブラリー教材のサーバへのアップロードが完了している
- VP：なし

Step2

- e-ラーニング：ライブラリー教材のサーバへのアップロードが完了している
- VP：修正中

② 5年生に対する症例ベースのIT教材 WG4

(ビデオ・VP・e-ラーニングを活用)

概要

訪問歯科診療のビデオを最初に供覧し実際の現場を認識する。このビデオから、訪問歯科診療の問題点の抽出を行う。

＜予想される問題点＞

- 1) 訪問用の器具機材
- 2) 患者の状態
- 3) スタッフの体制 等

訪問歯科診療に特化した治療を選択。

- 1) 修理、リライン、粘膜調整 等
- 2) 症例写真の収集

要介護高齢者の機能回復

② 5年生に対する症例ベースのIT教材 WG4

(ビデオ・VP・e-ラーニングを活用)

教材

1. 導入（ビデオ）：共通した訪問歯科診療のビデオが必要では？

（スライド10を参照）

② 5年生に対する症例ベースのIT教材 WG4
 (ビデオ・VP・e-ラーニングを活用)

教材

2. 医療面接 (VP) : 現状からは不可能ではないか。

- 1) 訪問診療の状況を再現できない。
- 2) シームレスの設定が不可能

7

② 5年生に対する症例ベースのIT教材 WG4
 (ビデオ・VP・e-ラーニングを活用)

教材

3. 診断治療計画 (e-ラーニング) : 全体を通じた作成が必要

8

② 5年生に対する症例ベースのIT教材 WG4
 (ビデオ・VP・e-ラーニングを活用)

教材

4. その他 : 未検討

9

③ WG1~4の内容と総合的な教材 WG4

74歳女性
口臭と上顎全部床義歯の脱落を主訴。
口腔内には保存不可能な歯が存在する。
脳梗塞・高血圧の既往

患者の自宅療養状況を示す動画があります。
全体的な状況を各担当として、口腔内環境等を各担当ごとに設定し、step3教材を作りたいと思います。

訪問歯科診療

WG1
要介護者の口腔ケアを学習テーマとしたい。
数年前から高血圧で、治療中(お薬手帳)。
残存歯にはプラークが多く(口腔内写真)。
歯齦状況もやや不良(エックス線写真、検査チャート)。舌乳頭の萎縮あり(写真)。
唾液量は減少

WG2
要介護者への外科処置に必要な知識、技術を学習テーマとしたい。
抜歯の対応方法

WG3
要介護者への治療における術前準備を学習テーマとしたい。
WG4と口腔内環境を交えて、治療法をテーマにすることも考えられる。

WG4
要介護者への補綴処置による機能回復を学習テーマとしたい。
義歯の調整・修理による機能回復

10

④ 5年生のポートフォリオの活用 WG4

未検討

11

⑤ 総合的な教材の作成 WG4

74歳女性 口臭と上顎全部床義歯の脱落を主訴。
口腔内には保存不可能な歯が存在する。
脳梗塞・高血圧の既往

要介護者への補綴処置による機能回復を学習テーマとしたい。

- ・義歯の調整・修理による機能回復
- ・リライン、粘膜調整による義歯の改変

要介護高齢者の機能回復

12